

2012年11月2日(金)

第1部 2012年度第2四半期決算概要 及び 2012年度業績予想

執行役員副社長 別川 俊介

2012年度第2四半期 業績サマリー

1-1

単位:億円

■ ポイント

(1) 受注高

・市況が厳しく全般的に減少。

(2) 売上高

・精密機械、環境・プラントは増加、船舶は減少、その他はほぼ横ばい。

(3) 営業利益

・環境・プラントを除くセグメントで
昨年比減少。

(4) 純利益

・特別損失が減少し前期比増加。

(5) 利益は7月末時点での予想よりも好転。

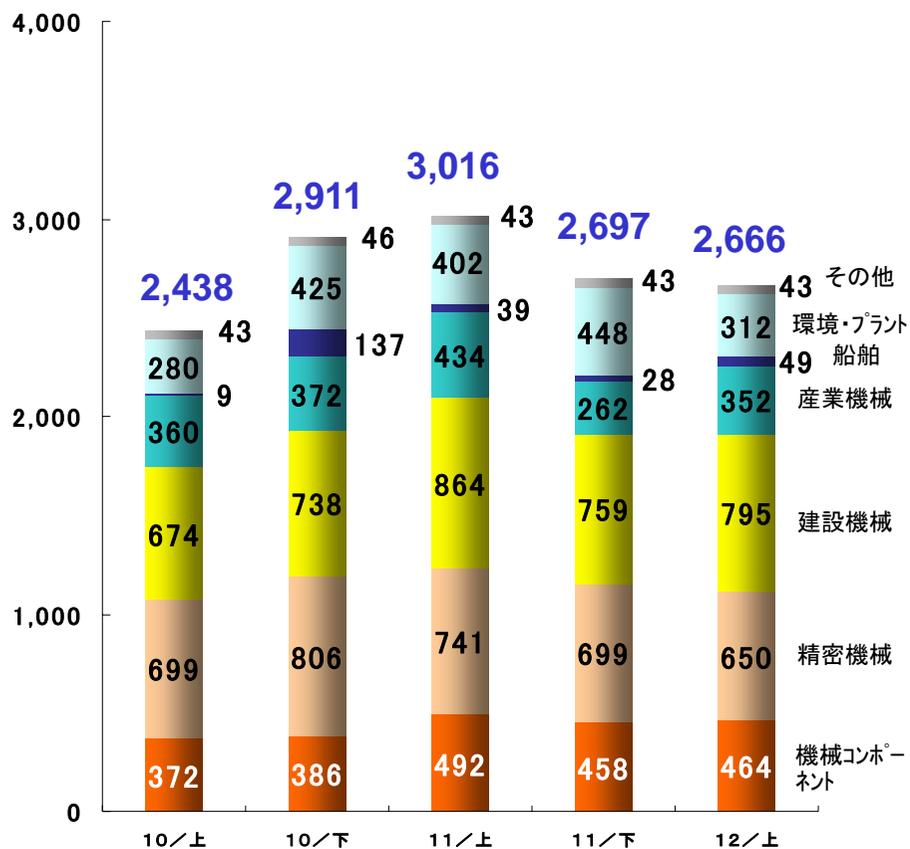
	2012/上	2011/上	増減
受注高	2,666	3,016	△350
売上高	2,933	2,941	△8
営業利益	174	216	△42
営業利益率	5.9%	7.3%	△1.4%
経常利益	166	202	△36
経常利益率	5.7%	6.9%	△1.2%
特別損益	△10	△28	17
純利益	98	92	6
純利益率	3.4%	3.1%	0.2%

受注・売上 半期推移

単位: 億円

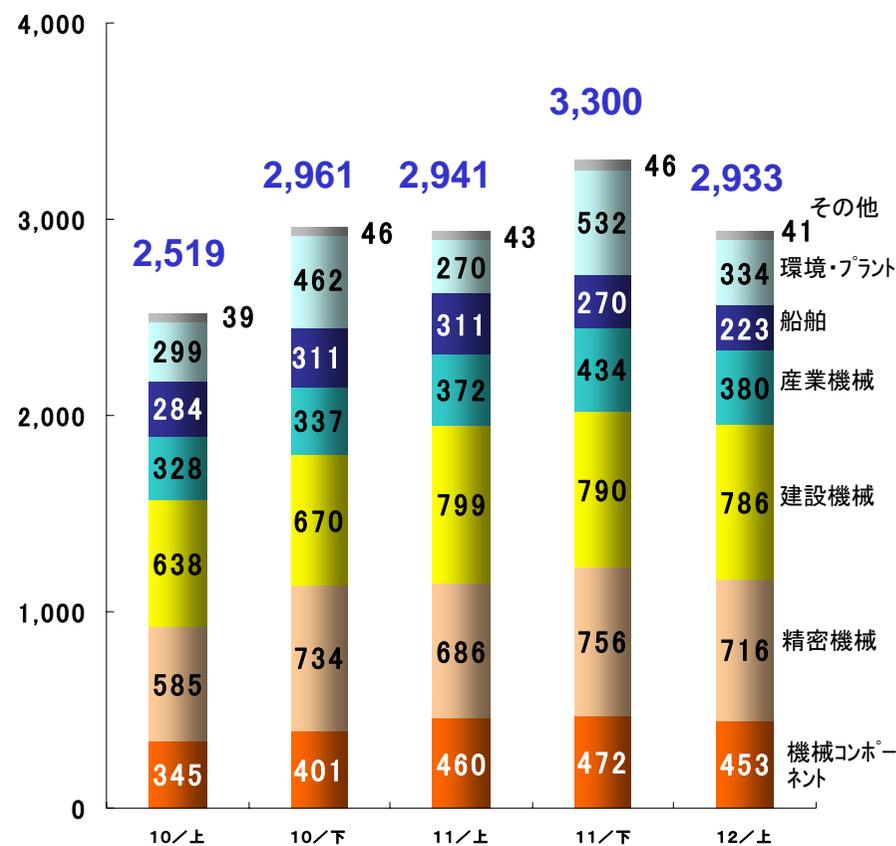
受注高

■ 全体的に低調な景気の影響を受け受注は低調。新造船の受注はない。



売上高

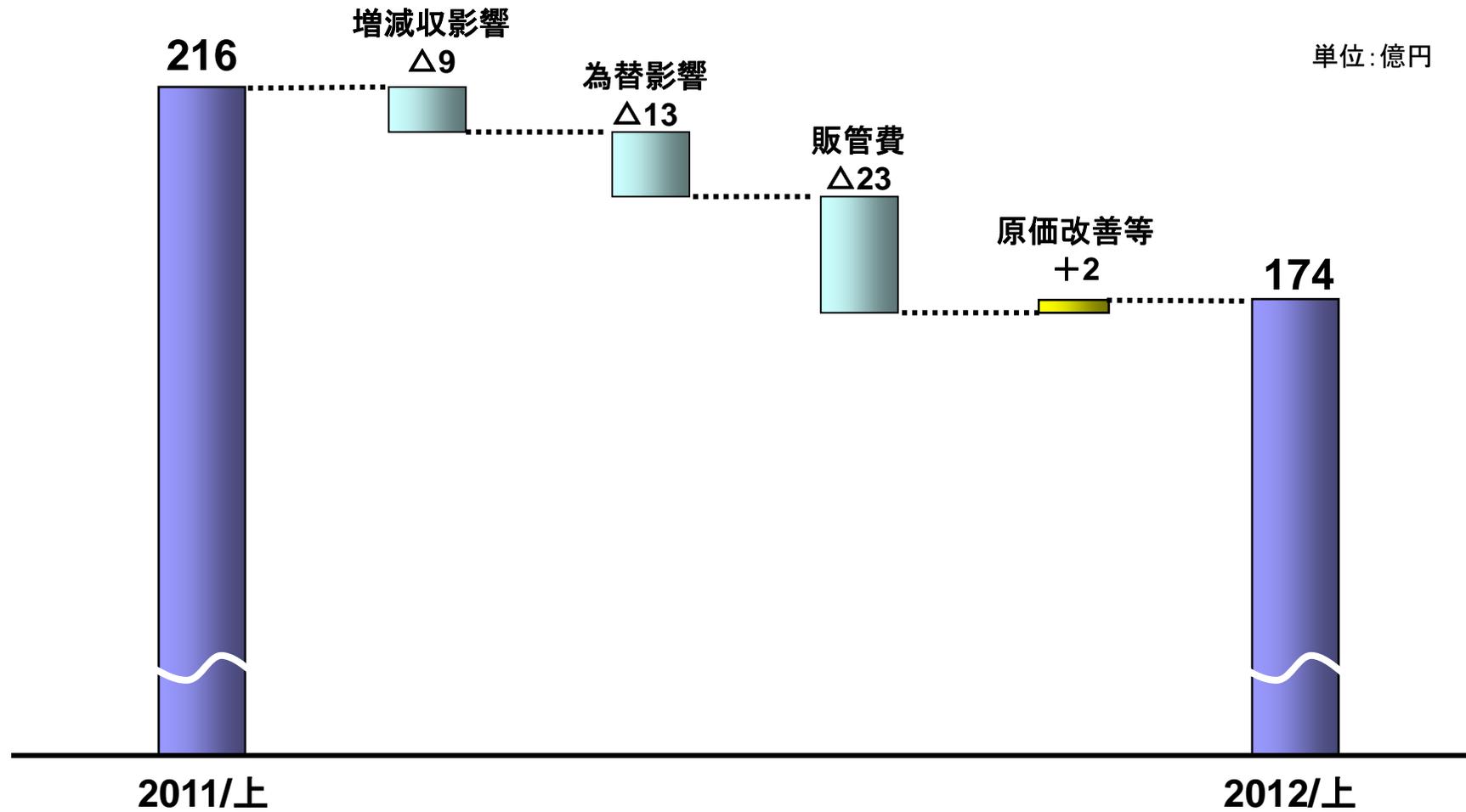
■ 精密機械、環境・プラントで前年同期比増加、船舶は引渡し隻数2隻。



セグメント別営業利益

		単位:億円		
■ 対前年度比較		2012/上	2011/上	増減
<機械コンポーネント> 国内案件減少および大型機種 of 採算悪化により利益減少	機械コンポーネント	5	22	△17
<精密機械> プチ機、精密機器は増加するも電子・半導体分野が低調なため微減	精密機械	55	60	△5
<建設機械> 米国モバイルクレーンは増加するも油圧ショベルが中国市場の影響を受け減少	建設機械	31	39	△8
<産業機械> 鉄鋼、造船分野の市況悪化により減少	産業機械	35	49	△14
<船舶> 新造船が前年比2隻少ない2隻の引き渡しのため減少	船舶	28	57	△29
<環境・プラント> 前期は京都市向け焼却灰溶融施設の不採算工事あり	環境・プラント	14	△20	34
	その他	6	8	△3
	計	174	216	△42

營業利益增減分析(2011/上-2012/上)



連結貸借対照表

単位: 億円

	2012/9末	2012/3末	増減		2012/9末	2012/3末	増減
流動資産	3,861	4,290	△430	負債	3,610	4,097	△487
現預金	437	734	△297	買掛債務	1,310	1,538	△229
売上債権	1,683	1,812	△129	前受金	231	278	△47
たな卸資産	1,492	1,439	53	有利子負債	878	965	△87
その他	249	305	△56	その他	1,191	1,316	△125
固定資産	2,621	2,628	△7	純資産	2,872	2,821	51
有形固定資産	2,216	2,198	18	株主資本	2,618	2,556	62
無形固定資産	68	64	4	その他の包括利益累計額	218	232	△14
投資その他の資産	337	366	△29	少数株主持分	36	33	3
合計	6,482	6,918	△436	合計	6,482	6,918	△436
				ネット有利子負債比率	6.8%	3.3%	3.5%
				自己資本比率	43.8%	40.3%	3.5%

連結キャッシュフロー計算書

区 分	単位:億円		
	2012/上	2011/上	増減
営業活動	△47	135	△183
税金等調整前四半期純利益	155	174	△19
減価償却費	85	85	△1
運転資本	△189	△2	△187
その他(税金等)	△99	△122	23
投資活動	△121	△87	△34
フリーキャッシュ・フロー	△168	49	△217
財務活動	△138	△6	△132
現金・現金同等物増減	△305	40	△345
現金・現金同等物期末残高	423	564	△141

2012年度セグメント別業績予想

1-7

単位:億円

- ポイント (1) 受注は建機セグメントの油圧ショベルが中国での落ち込みが大きい。
- (2) 売上は機械コンポ、建機、産機、船舶で減少。
- (3) 営業利益は環境・プラントで増加するも他セグメントは減少し、全体として減益。船舶は赤字。

		2011下期 実績	2012上期 実績	2012下期 予想	2012年度 予想	2011年度 実績
機械コンポーネント	受注高	458	464	436	900	951
	売上高	472	453	477	930	932
	営業利益	20	5	20	25	42
精密機械	受注高	699	650	750	1,400	1,439
	売上高	756	716	784	1,500	1,441
	営業利益	65	55	55	110	125
建設機械	受注高	759	795	705	1,500	1,624
	売上高	790	786	714	1,500	1,589
	営業利益	44	31	14	45	83
産業機械	受注高	262	352	318	670	696
	売上高	434	380	340	720	807
	営業利益	46	35	25	60	95
船舶	受注高	28	49	131	180	67
	売上高	270	223	247	470	581
	営業利益	53	28	△38	△10	109
環境・プラント	受注高	448	312	648	960	850
	売上高	532	334	466	800	801
	営業利益	20	14	56	70	0
その他	受注高	43	43	47	90	86
	売上高	46	41	39	80	89
	営業利益	8	6	14	20	17
合計	受注高	2,697	2,666	3,034	5,700	5,713
	売上高	3,300	2,933	3,067	6,000	6,241
	営業利益	256	174	146	320	471

2012年度業績予想

- ポイント
- ・厳しい受注環境が継続するため通期利益については7月末予想を据置き。
なお、装備事業の過大請求返納金については織り込んでいない。
 - ・年8円の配当予想を据置き。

単位:億円

	2012上期実績	2012下期予想	2012年度予想	2011年度実績
受注高	2,666	3,034	5,700	5,713
売上高	2,933	3,067	6,000	6,241
営業利益	174	146	320	471
営業利益率	5.9%	4.8%	5.3%	7.6%
経常利益	166	124	290	446
経常利益率	5.7%	4.0%	4.8%	7.1%
特別損益	△10	△5	△15	△64
当期純利益	98	67	165	195
当期利益率	3.4%	2.2%	2.8%	3.1%
配当	4円	4円	8円	10円
配当性向	-	-	29.8%	31.5%
ROIC (税引後)	-	-	4.7%	7.4%
織込レート(ドル)	79円(実績)	78円	—	85円(実績)

2012年11月2日(金)

第2部 経営戦略

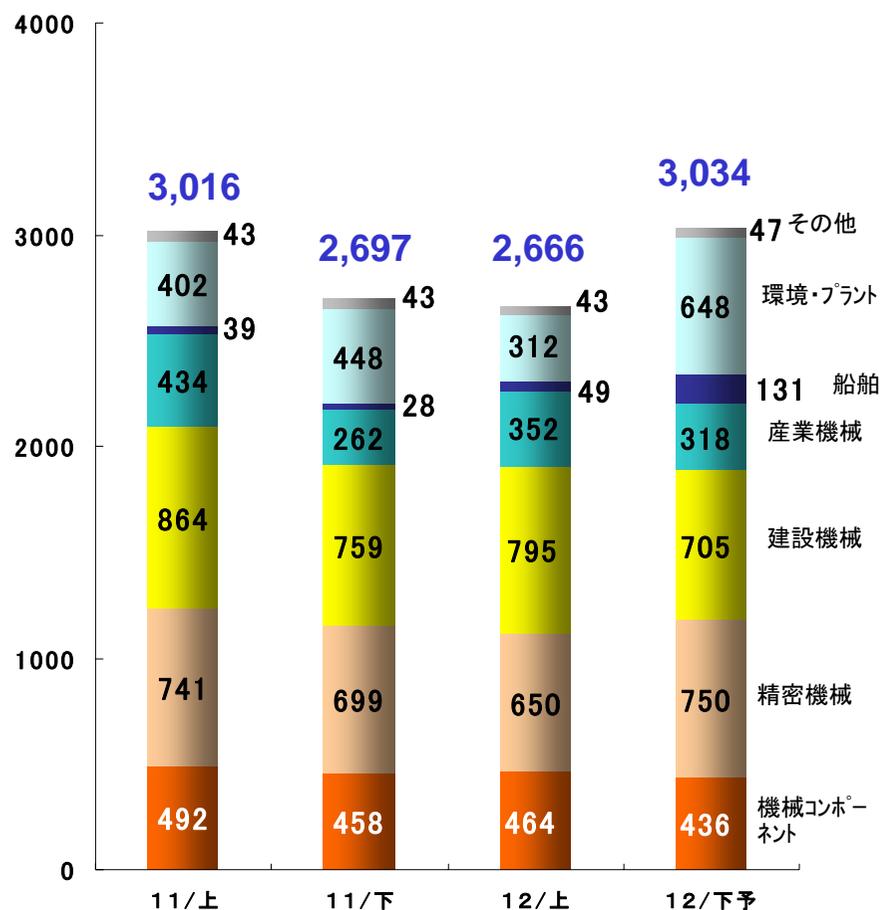
社長 中村 吉伸

受注高・売上高推移

単位: 億円

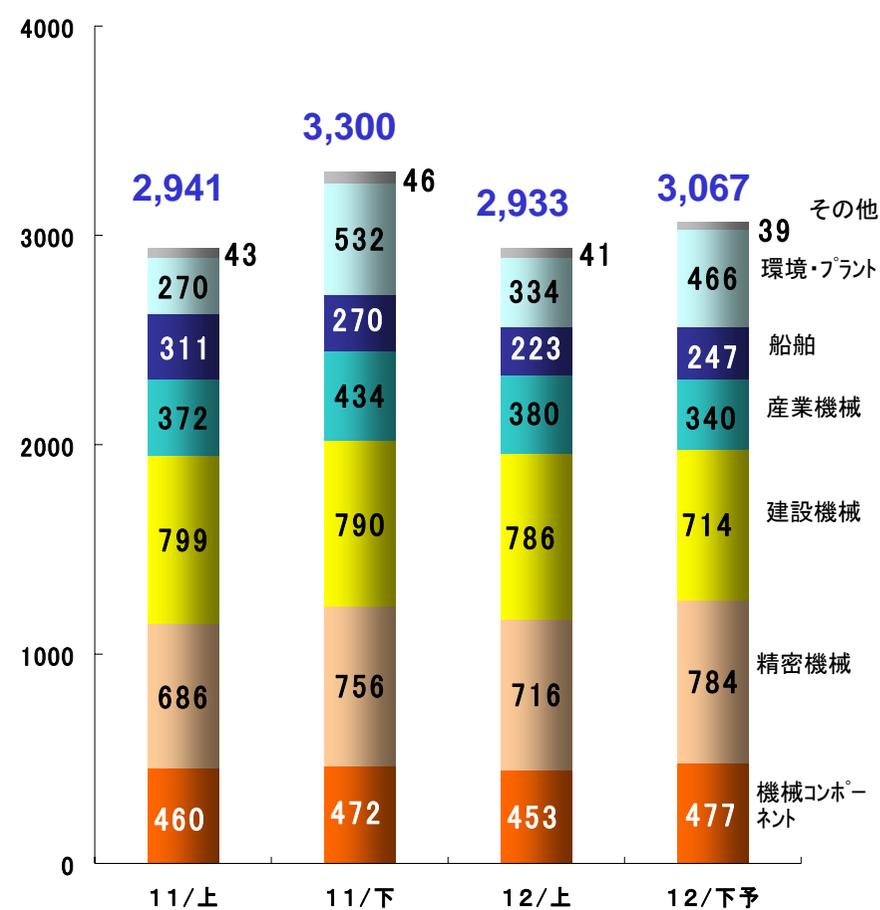
受注高

建設機械、機械コンポは厳しいが、
環境・プラントは複数の大型案件あり。



売上高

船舶は下期3隻引渡し予定。
建設機械など他のセグメントも厳しい状況継続。



2012年度下期セグメント別受注環境

- 量産機械系は欧州の金融不安長期化の影響や中国経済の回復時期の遅れなどにより先行きに不透明感がある。
- 重機械系の受注環境は一部を除いて依然厳しい状況が続く。

単位: 億円

セグメント	受注環境	2012年度受注金額		
		上期実績	下期予想	通期予想
機械コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> ・中国は成長鈍化が長期化の見込み。欧州、国内需要も不透明。 ・新興国の景気拡大ペース鈍化の見込み。 	464	436	900
精密機械	<ul style="list-style-type: none"> ・射出成形機は、北アジアでIT関連市況が低迷。欧州では自動車関連が弱まる。 ・MRI向けは堅調に推移する見込みだが、他の医療関連は海外中心に引合いあるものの実現に時間がかかっている。 ・電子・半導体は低調に推移。 	650	750	1,400
建設機械	<ul style="list-style-type: none"> ・油圧ショベルは、国内は震災復興により堅調だが、中国の市況の落ち込みは想定より長期化。 ・モバイルクレーンは上期はエネルギー関連で市況がやや回復したが下期は減速傾向。 	795	705	1,500
産業機械	<ul style="list-style-type: none"> ・タービンは、プロジェクトの遅延に加え円高で厳しい状況継続。 ・プレスは自動車関連顧客の海外トランスプラントへの投資の動きが継続。 ・クレーンは鉄構・造船市況悪化により厳しい環境が継続。 	352	318	670
船舶	<ul style="list-style-type: none"> ・新造船はタンカー市況の低迷状態が続いているうえ、円高が継続して厳しい。 	49	131	180
環境・プラント	<ul style="list-style-type: none"> ・産業用ボイラは国内はFITで活況。一部海外も案件増加。 ・水処理設備は予算執行遅れのため通常の設定投資は延期の動き。民需は設備投資抑制の影響継続。 ・圧力容器は円高・ユーロ安長期化傾向のため厳しい受注環境が継続。 	312	648	960
その他		43	47	90
	合計	2,666	3,034	5,700

機械コンポーネント

変減速機:

12上期: 中国を除く海外については好調に推移するも、国内は減速感が強く、特に大型機種が低迷。

12下期: 国内では、水処理向け等期待できる分野もあるが、全般的に市場が低迷する中で厳しい価格競争継続。海外生産シフト、コストダウンにより利益確保。



精密機械

プラスチック加工機械：

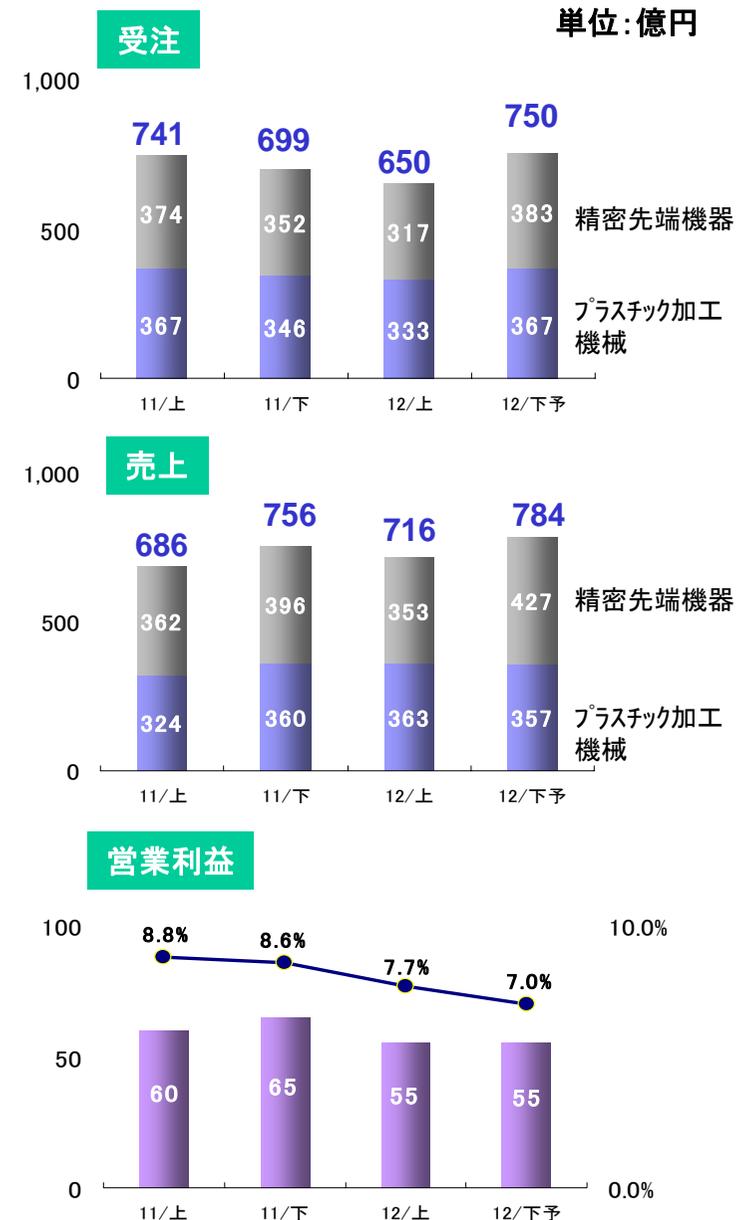
12上期：中国を中心とした北アジア市場で需要が減少し日本はやや低調。欧州市場は昨年並み。タイの水害対応で売上増加。

12下期：国内の総需要は低調に推移の見込み。円高の影響もあり、競争激化が予想されるが新機種投入で巻き返しを図る。欧州も自動車業界の減速懸念により厳しさが増しているが受注確保に注力。

精密先端機器：

12上期：極低温冷凍機は堅調に推移。半導体製造装置では海外案件の受注が実現。

12下期：極低温冷凍機は堅調継続。半導体製造装置関連は、国内が厳しい状況継続。海外での受注拡大を目指す。



建設機械

シヨベル・道路機械:

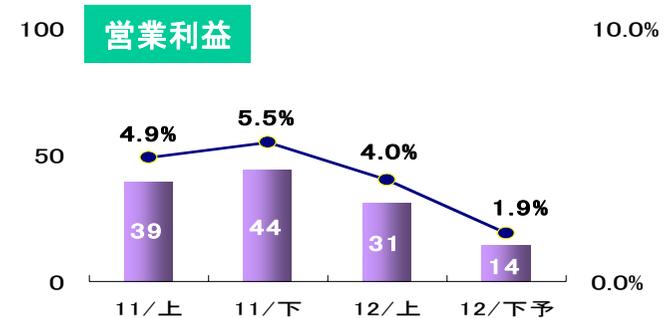
12上期: 国内は震災復興需要が継続しており
期初想定を超える実績。中国を中心とした
海外での需要が期初想定に届かず、受注・
売上ともに減少。

12下期: 中国市場の低迷はさらに長期化の
見込みとなり、受注・売上・営業利益とも下方
修正。

クレーン:

12上期: 北米市場でのエネルギー関連の需要
回復により、受注・売上は増加。

12下期: 下期は減速傾向があるが受注確保
に注力。



産業機械

2-6

鍛造プレス:

12上期: 日系メーカーの海外工場向けに受注継続。

12下期: 引き続き国内外顧客向けの営業活動強化。

運搬機械:

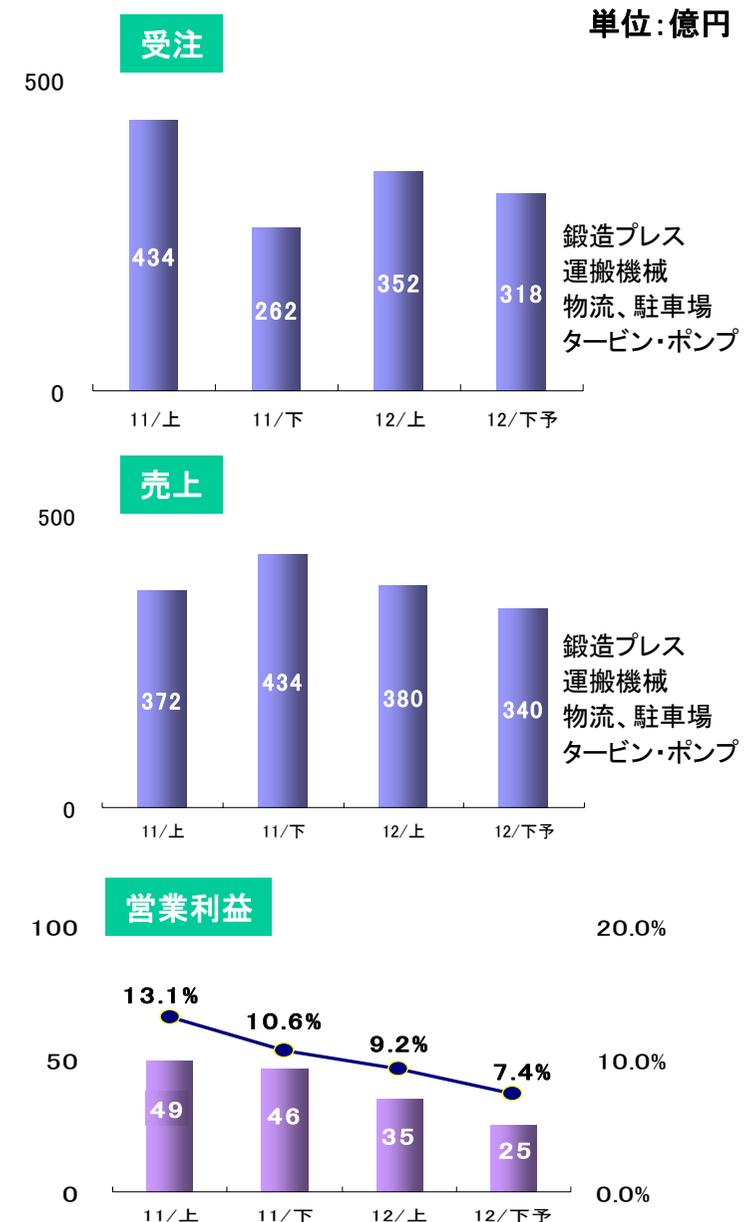
12上期: 造船、鉄鋼向けの案件減少により受注が低迷。

12下期: サービスも含め受注確保に注力。

タービン・ポンプ:

12上期: タービンは、新興国において事業計画の中止・延期が発生した影響で受注が低調。

12下期: タービンは東南アジアでの営業強化により受注確保。



船舶:

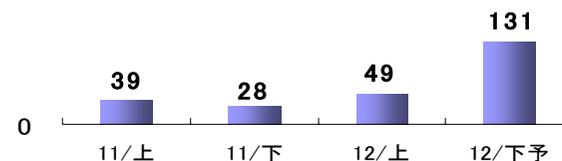
12上期: タンカー市況は依然回復せず、船主の様子見が継続しており、上期の新造船受注はゼロ。売上は前年同期比2隻少ない2隻。修理船については受注が堅調。

12下期: 受注環境は厳しいが、下期3隻の受注を織り込む。売上は3隻を予定するも赤字。

500

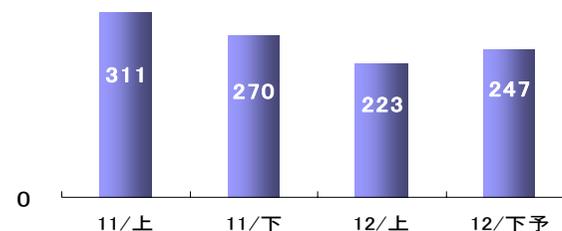
受注

単位: 億円

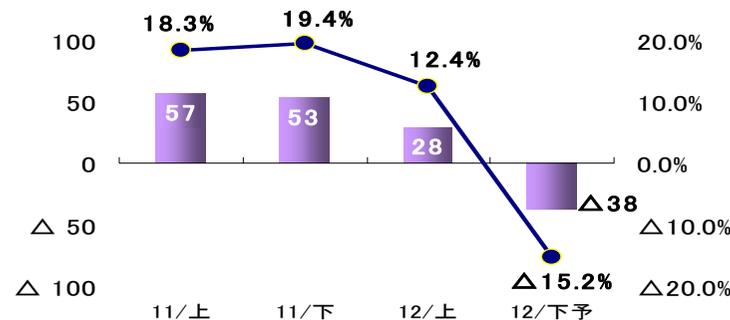


500

売上



営業利益



環境・プラント

エネルギー環境:

- 12上期: ボイラは国内で1件受注。
 12下期: FITにより国内マーケット活況が予想され受注対応強化。東南アジアでの営業を継続して強化。

水環境:

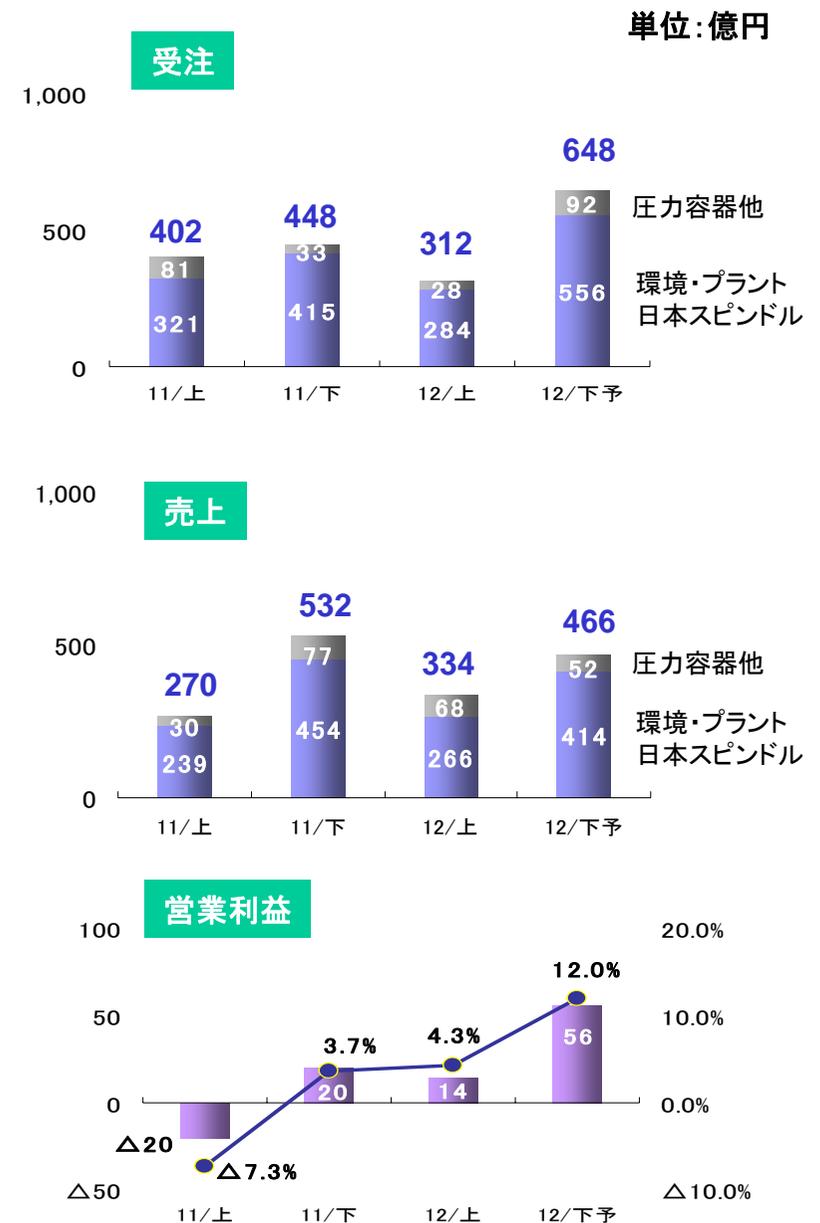
- 12上期: 震災復興対応への優先配分により受注、売上とも厳しい。
 12下期: 国内市場で強いユニット商品の積極的拡販。海外市場への展開強化。

日本スピンドル:

- 12上期: 投資案件の決定時期遅延。
 12下期: 新興国設備投資案件や高炉、電炉向け集塵機の営業活動を強化。食品機械も海外案件対応開始。

鉄構・機器:

- 12上期: 投資案件の決定時期遅延。
 12下期: 圧力容器は厳しい競争継続。攪拌、コークス炉機械の受注確保を目指す。

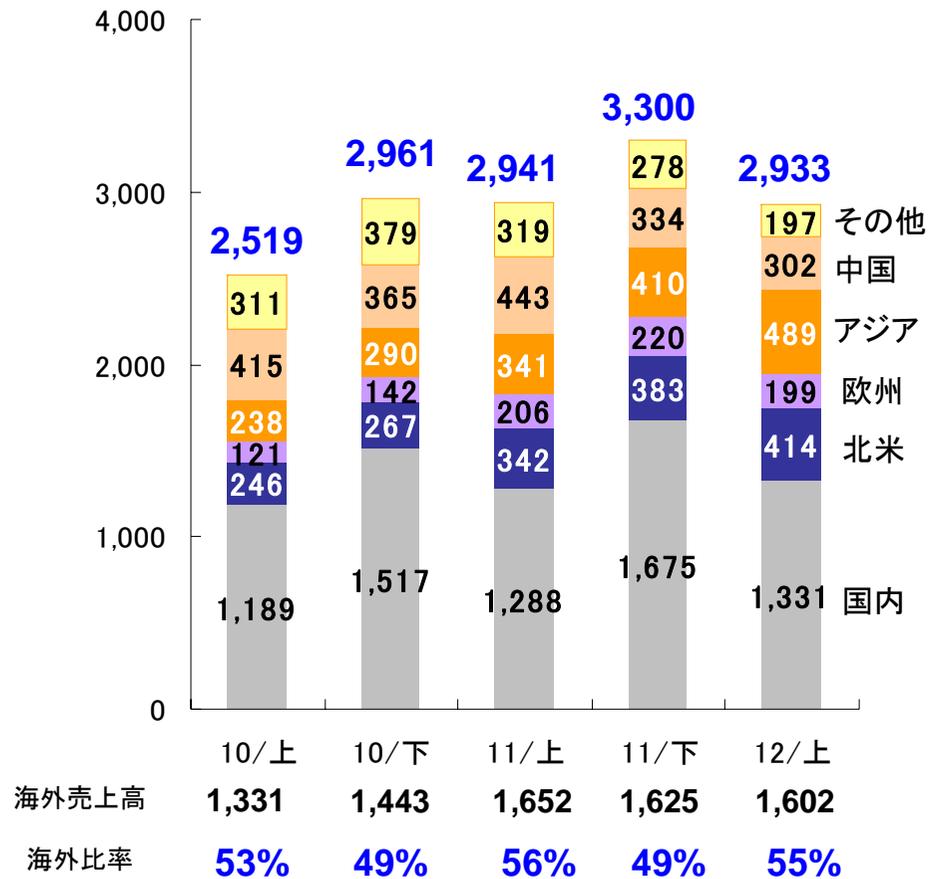


地域別売上高

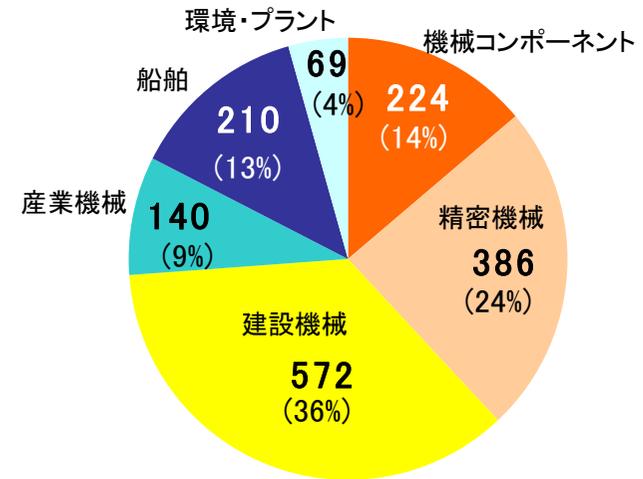
単位: 億円

地域別売上高推移

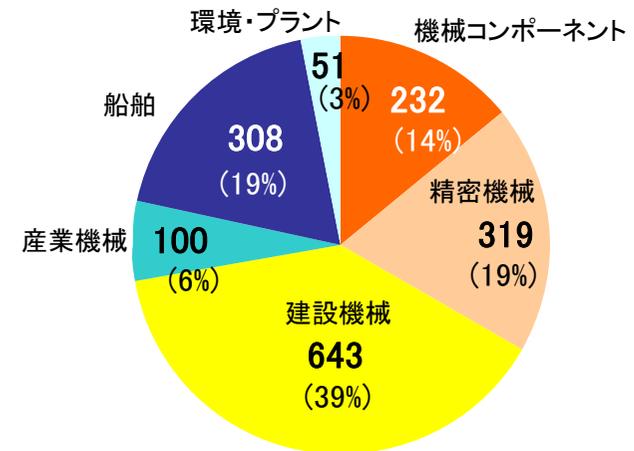
単位: 億円



12/上 セグメント別海外売上高



11/上 セグメント別海外売上高



■ 概要

防衛省向けの防衛装備品等の契約において、間接作業時間の工数の振り替えなどにより費用を過大に計上

■ 契約総額 昨年度までの5年間で約258億円

※ 当社および当社100%子会社である住重特機サービス(株)の契約総額

■ 業績への影響等

- ・現在指名停止中
- ・具体的な過大計上額や処分対象となる範囲について調査段階のため不明。状況が明らかになり次第開示予定
- ・再発防止策を検討中

■ 状況

- 2011/5-2011/11 焼却灰溶融施設の試運転
- 2011/11 試運転を停止
- 2011/11-2012/4 以下につき実施
- ・ 当施設の全ての機器・設備の点検
 - ・ 予想される全てのトラブルと原因の抽出
 - ・ 対応策の立案
- 2012/7 対応策につき京都市より了解受け
- 2012/8 改造工事着手
- 2013/8/末までに 引渡し

■ 業績への影響

2011年度業績に、合理的に見込まれる工事損失等を引当済み

2012年度：

グローバル化とイノベーションの基本方針に基づき、市場を世界に求めて、戦いに勝ち抜ける「強い住友重機械」を目指す。

- ✓ 経営規律と財務規律を守り、持続的競争優位を
確立し、健全な事業の発展を目指す。
- ✓ 保有する優れた事業ポートフォリオと人材を活用して、
如何なるときにも堅実に収益を確保する。
- ✓ 時勢の変遷を見極め、攻めと守りの施策を
バランス良く実践する。

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。